

～辞書アレコレ～

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは今まで図書館（室）をどのように利用されてきましたか。本を読むため？ 本を借りるため？ それとも新聞や雑誌を読むためでしょうか。図書館の特徴として、特に外国語大学として本学図書館では数多くの辞書類を備えています。そこで今回は辞書（特に英語の辞書）にまつわるお話を少し。

辞書と言えば、手元にはどんな辞書がありますか？ 最近は電子辞書が数多く出ているので、使っている人も多いと思います。紙でできた物しかなかった昔とは隔世の感があります。では、英語の辞書はいつ頃出版されたのでしょうか。辞書の歴史の中から代表的な物をピックアップしてみましょう。最初に出版された英語の辞書はロバート・コードリーの *A Table Alphabeticall* (1604) とされています。それまでも英語とスペイン語というように二カ国語辞典はありましたが、英語で英語を説明する辞書は初めてでした。それから次々に英語辞書が出版されました。しかしながら難解な語の解説が多く、一般人が使えるような物ではなかったようです。その後サミュエル・ジョンソンの *A Dictionary of the English Language* (1755) が出ました。ジョンソンは単語の用例を豊富に載せ、更に単語の意味に番号を付して区分するなどしました。一方アメリカではジョンソンに対抗して、ウェブスターが *A Compendious Dictionary of the English Language* (1806) を出版しました。ウェブスターの名前を聞いたことがある方もおられるのではないのでしょうか。その後は *OED* の出版が一大国語辞典の誕生となります。この *OED* というのは *OECD*（経済協力開発機構）ではなく、*The Oxford English Dictionary* の略称です。因みに *COD* は *The Concise Oxford Dictionary of Current English*、*POD* は *The Pocket Oxford Dictionary of Current English* の略称です。余談になりますが *COD* は *concise* という単語が使われているものの、日本で出版されている通常のコンサイスと名が付く辞書よりかなりボリュームがあり、*POD* に至っては日本人のポケットには入らないのではと心配してしまうほどです。

英語は一般的に古英語（Old English, OE）が450年～1100年、中英語（Middle English, ME）が1100年～年1500年、近代英語（Modern English, ModE）が1500年以降と大きく区分されます。上に述べた通り、英語の辞書は1604年のロバート・コードリーのものが最初とされています。今から約400年前のことです。英語の歴史の中では新しいものと思われるかも知れませんが、因みに印刷術の発明は15世紀中頃のことでした。

ところで世の中には数多くの学問が存在していますが、辞書について研究する辞書学という分野があります。英語では *lexicography* といいます。もし興味がありましたら、図書館の蔵書検索用コンピュータで検索してみてください。

最後に、図書館の辞書は原則として貸し出しは出来ません。赤色の禁帯出と書かれたラベルが本の背に貼られています。ですから館内で調べるための使用に限定されます。手持ちの辞書より更に詳しく調べたい時などに使うことが想定されています。辞書は閲覧室に並べられていますが、実は書庫にも沢山あります。どのような物があるのか、一度図書館に足を運んでみませんか？

ふじい たつや（司書・図書館係長）